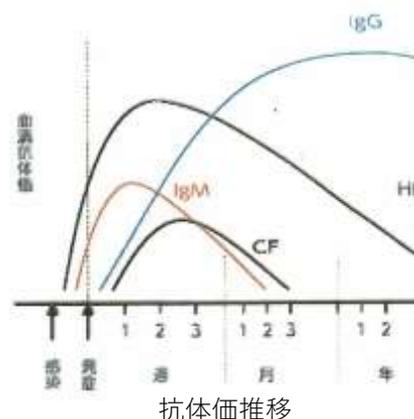


麻疹抗体検査について

IgM抗体とIgG抗体

麻疹診断のための抗体検査として、IgM抗体とIgG抗体があります。

抗体	特徴
IgM	感染後早期に出現し、2~3ヶ月程度で消滅する。 胎盤通過性なし。
IgG	感染後IgMに少し遅れて出現し、長期にわたり 検出される。 胎盤通過性あり。



感染診断

臨床所見と合わせて発疹出現後4~28日に特異的IgM抗体が十分上昇していれば麻疹と判断できます。

ただし、一般的にIgM抗体は発症後すぐに抗体検査を実施しても陰性の場合があるので注意が必要です。

発症した人が周囲に感染させる期間は、症状が出現する1日目（発疹出現の3~5日前）から発疹出現後4~5日目くらいまでで、学校は解熱後3日を経過するまで出席停止となります。

既往歴感染者あるいはワクチン接種者の確認

IgG抗体は発疹出現後7日までは検出されず、発疹出現後14日でピークになり長期にわたり検出されます。ワクチン接種者の免疫成立確認は接種後6週間目が適当とされています。

検査項目概要

検査項目名	麻疹ウイルス抗体	
	IgM	IgG
検査方法	EIA法	
検体量	血清 0.3mL	
所要日数	3~5日	
検査実施料	206点（「D012 感染症免疫学的検査「42」」）	